

## 平成20年度 医療安全管理の取組について

平成21年7月14日

公立大学法人横浜市立大学

附属病院

附属市民総合医療センター

## 目 次

■ 医療事故公表判定基準等	.....	1
■ 一括公表事例	.....	3
I インシデント報告の状況	.....	4
II 入院患者アンケート調査結果	.....	6
III 主な改善検討事例	.....	8

(参考) 資料中での病院名の正式名称は次のとおりです。  
附属病院 : 横浜市立大学附属病院  
センター病院 : 横浜市立大学附属市民総合医療センター

横浜市立大学医学部附属病院は、平成11年1月の患者取り違え事故をはじめ、薬剤ラベル貼り付けミスなど、これまでに引き起こした医療事故の反省の上に立って、病院を挙げて医療安全管理の徹底に努めてまいりました。

医療の安全管理を進め、患者さんの安全を確保するとともに、医療事故の発生などの情報を公表することによって、病院運営の透明性を高めることが、医療の信頼を回復するために重要であります。

そこで、横浜市立大学では、医学部附属病院及び同市民総合医療センター（以下「附属2病院」といいます。）がどのような場合に医療事故の情報を公表するかを検討するため、平成12年8月7日に市立大学病院改革委員会のもとに医療事故公表基準作成特別委員会を設置しました。同特別委員会は、これまでに6回の審議のほか、市民、市会議員、医療関係者、法律専門家、評論家など多くの有識者・専門家の方々からのご意見を伺いながら検討を進め、附属2病院における医療事故の公表についての考え方をとりまとめました。

## 1 医療事故の公表の意義

医療事故を公表することには、次のような意義があるものと考えます。

- (1) 平成11年1月に起こした患者取り違え事故を契機に、医療事故が大きな社会問題となっているが、当事者として、医療における安全管理を徹底していくために自発的に医療事故を公表していく責務がある。
- (2) 医療事故を公表し適切な対応をとることは、附属2病院の社会的な責任であるとともに、病院運営の透明性を高めることにより、市民からの信頼回復が図られる。
- (3) 医療事故を公表することは、他の病院の医療安全管理にとっても重要な情報提供になる。

## 2 用語の定義

本報告において使用する用語の定義は、次のとおりです。

- (1) 医療事故  
患者さんが本来持っていた疾病や体質などの基礎的条件によるものではなく、医療においてその目的に反して生じた有害な事象をさす。医療事故には、医療内容に問題があつて起きたもの（過失による医療事故）と医療内容に問題がないにもかかわらず起きたもの（過失のない医療事故）とがある。
- (2) インシデント事例  
医療従事者が医療を行ううえで、“ヒヤリ”としたり、“ハッ”とした経験を有する事例で、医療事故には至らなかった場合をさす。

## 3 医療事故の公表基準

附属2病院は、今後、次のいずれかに該当する医療事故が発生した場合は、患者さんとご家族の同意のもとに、これを速やかに公表します。公表にあたっては、原則として、4の「医療事故公表判定委員会」の意見を聞くものとします。

- (1) 過失による医療事故で、それが死因となった場合、もしくは「生命の危険等、深刻な病状悪化をもたらす」、「治療しても治癒しない」、「治癒するがかなりの負担を強いる」など、患者さんに相当の有害な結果を生じた場合。
- (2) 過失による医療事故で、有害な事象の程度が軽微であっても、病院の医療安全管理上重大であると判断される場合。
- (3) 患者さんに相当の有害な結果を生じた医療事故で、過失によることが明らかでなくても、公表すべきと判断される場合。  
また、上記以外の過失による医療事故は、包括的な形で一括して公表します。  
なお、インシデント事例は原則として公表しません。

## 4 医療事故の公表の判断・判定について

医療事故の公表の判断・判定に関して、病院長の諮問機関として、外部の有識者、他の医療機関等の医師、横浜市立大学教職員などにより構成する「医療事故公表判定委員会」を設置します。

当委員会は、病院長の諮問により、以下の項目を審議します。

- (1) 速やかに公表すべき医療事故であるか否か、について。
- (2) 医療事故に関して患者さんとご家族に対する説明が十分になされたか、また公表に関する同意が得られたかの状況の確認、及び公表の範囲について。
- (3) 患者さんのプライバシー・人権への配慮と、社会に対する説明責任との比較考量について。
- (4) その他、医療事故公表基準の運用に当って重要な事項について。

病院長は、審議結果を受け、公表について意思決定します。ただし、速やかに公表すべきと判断される場合で委員会を開催するいとまがない場合は、事後に報告するものとします。

## 医療事故公表判定委員会にかかる設置要綱等

### 公立大学法人横浜市立大学附属病院及び附属市民総合医療センターにかかる 医療事故公表判定委員会設置要綱

平成17年4月1日 制定

#### (目的及び設置)

第1条 公立大学法人横浜市立大学附属病院及び附属市民総合医療センター（以下「附属2病院」という。）における医療安全管理を推進するとともに、病院運営の透明性を高め、医療事故についての社会的な責任を果たすため、市立大学に医療事故公表判定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (所掌事項)

第2条 委員会は、病院長の諮問により次の項目を審議し、意見を述べるものとする。

- (1) 諮問された案件が、速やかに公表すべき医療事故であるか否かについて
- (2) 諮問された案件に関して、患者・家族に対する説明が十分になされたか、また公表に関する同意が得られたかの状況の確認、及び公表の範囲について
- (3) 諮問された案件にかかる患者のプライバシー・人権への配慮と、社会に対する説明責任との比較考量について
- (4) 医療事故公表基準の運用に当って重要な事項について
- (5) 医療安全管理の取組、インシデント報告システムの運用等について

#### (組織及び任期)

第3条 委員会は、理事長が委嘱する次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 医療安全管理に関する学識者・専門家
  - (2) 他の医療機関等の医師
  - (3) その他理事長が指名した者
- 2 前項の委員の任期は、委嘱の日から2年間とし、再任を妨げないものとする。
  - 3 委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により定める。
  - 4 委員長は、会務を統括し、委員会を代表する。
  - 5 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、会議の議長となる。

#### (秘密の保持)

第4条 委員会の委員として知り得た事項に関しては、正当な理由なく他に漏らしてはならない。

#### (庶務)

第5条 委員会の庶務は、経営企画室経営企画課、医学・病院運営推進部総務課及び附属市民総合医療センター管理部総務課において処理する。

#### (その他)

第6条 委員会の運営その他必要な事項に関しては、委員長が別に定める。

#### 附 則

この要綱は、平成17年4月1日から施行する。

#### 医療事故公表判定委員会 委員名簿（平成21年5月現在）（敬称略：五十音順）

氏 名	現 職 等
あまかわ たかのり 天川 孝 則	横浜市立みなと赤十字病院 顧問
いまい みつお 今井 三 男	(社)横浜市医師会 会長
しいの とくこ 椎野 恵 子	ランパスの会 (病院ボランティアグループ) 代表
なかやま ひでゆき 中山 秀 行	本町中央法律事務所 弁護士
ふじもと やすつぐ 藤本 康 嗣	(社)神奈川県病院薬剤師会 副会長
ほさか ひろお 保坂 洋 夫	(恩)済生会 横浜市南部病院 病院長
ほり きくこ 堀 喜 久子	(社)神奈川県看護協会 常務理事
ほんだ こういち 本田 耕 一	関東学院大学 副学長

## 一括公表事例

### 附属病院

1	<p>患者A（40代、女性）は、平成21年3月、乳癌術後照射治療（照射総線量50Gy：1回2Gy×25回予定）中、照射室前で患者Bの次に照射の順番待ちをしていた。順番で患者Bを照射室へ呼び入れようとした時に不在だったため、繰り上げて患者Aを照射室へ呼び入れた。照射室で患者確認を行った後、照射部位の設定を行い照射を開始した。この際、患者の変更に伴う照射プランの切り替えが行われていなかった。1回2Gyのところ1Gy照射した時点で照射野のよく似た患者Bの照射プランであることに気づき、直ちに照射を中止した。</p> <p>その後、患者Aは、予定どおりの放射線治療を終了し、誤照射による影響はみられていない。</p>
	<p>&lt;再発防止策&gt;</p> <p>照射直前に患者氏名、ID番号、照射角度、照射線量の4項目を、二人の技師で指さし、呼称することにより確認の徹底を図った。</p>

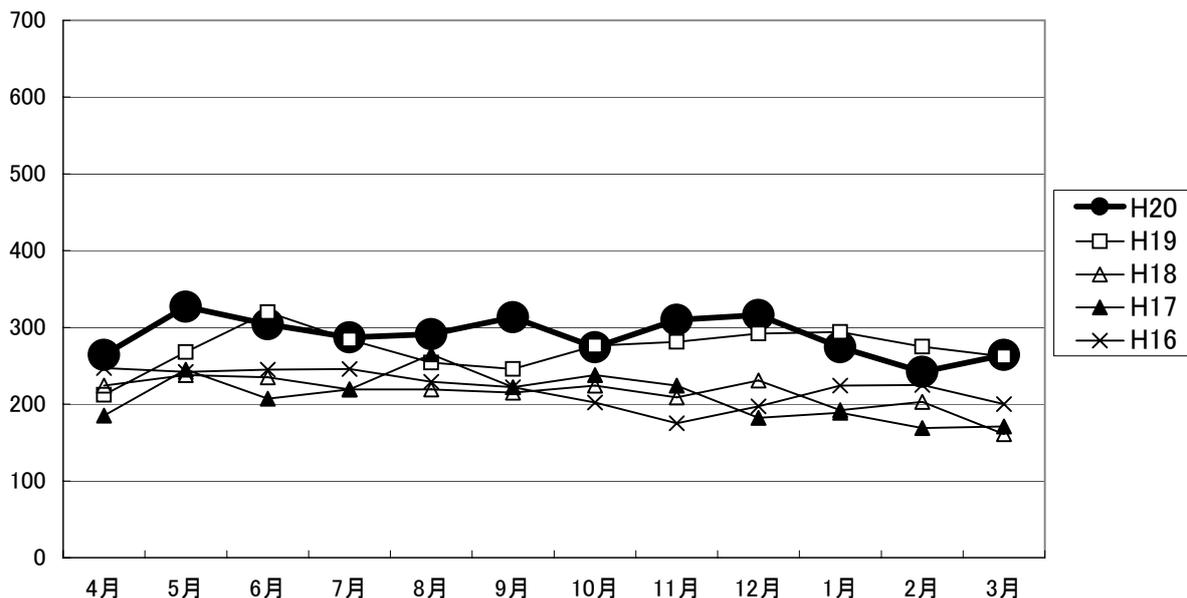
### 附属市民総合医療センター

1	<p>患者（80代、男性）は、平成20年5月、転院のために当院が所有する救急車にて、受入先病院へ移送となった。転院先に到着後、職員（救急車運転手）が、ストレッチャーにて院内へ患者を搬送しようとしたところ、病院入口付近でバランスを崩し、ストレッチャーが転倒し、患者は頭部を切創した。</p> <p>ストレッチャーには、患者用の輸液用ポンプと酸素ボンベが同じ側に装着されていたため、不安定な状態であった。また、同乗の医師1名は、患者の荷物を持って付き添っていた。</p> <p>患者の後頭部の切創は、1週間程度で治癒した。</p>
	<p>&lt;再発防止策&gt;</p> <p>救急車の運用にあたり、下記の2点を徹底</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ストレッチャーによる移動搬送は、必ず2人以上で行う。</li><li>2 ストレッチャーに装着する医療機器は、バランスを考慮して最小限の装着とし、搬送時に確認する。</li></ol>

# I インシデント報告の状況（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

## 1 附属病院

### (1) インシデント報告の月別件数



### (2) インシデント報告の職種別内訳と提出率

職種	件数		月平均		構成比		提出率		職員数	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
医師	116	123	9.7	10.3	3.3%	3.8%	4.1%	4.5%	234	228
看護師	3,062	2,802	255.2	233.5	88.3%	85.8%	43.4%	41.4%	588	564
コ・メディカル	255	298	21.3	24.8	7.4%	9.1%	12.8%	15.4%	166	161
事務・その他	33	41	2.8	3.4	1.0%	1.3%	4.6%	6.2%	60	55
合計	3,466	3,264	288.8	272.0	100.0%	100.0%	27.6%	26.0%	1,048	1,008

※ 職員数は20年度(4月～3月)の月平均現在員数

※ 提出率(%)=(職種ごとの1ヵ月当たりの提出件数)÷(職員数)

### (3) インシデント報告の事象別内訳

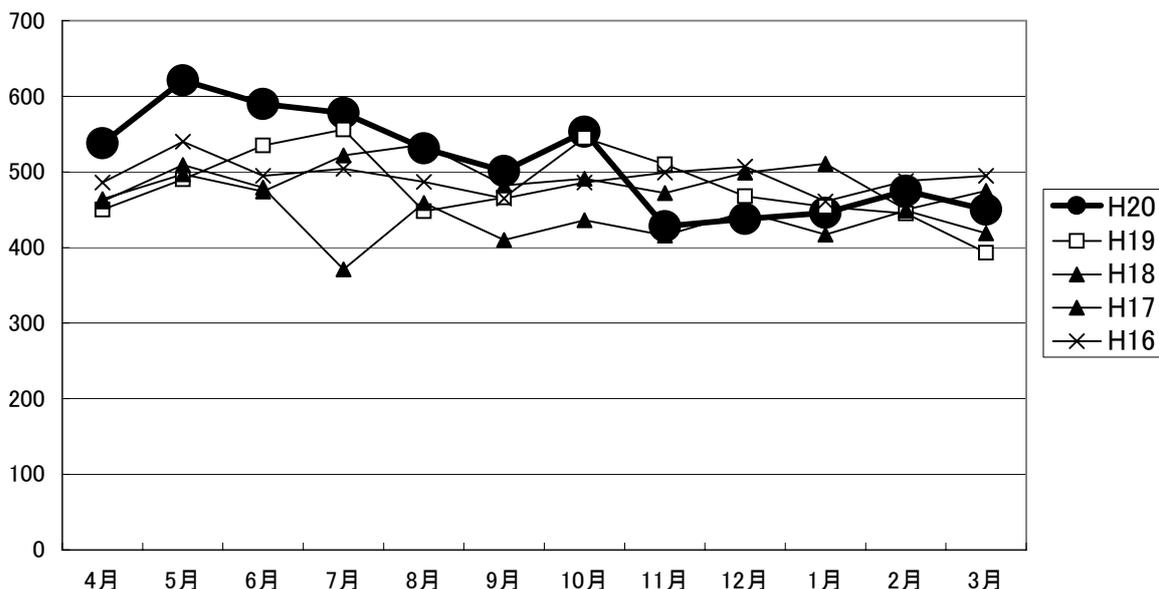
事象	件数		月平均		構成比	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
手術・鎮静・麻酔	80	55	6.7	4.6	2.3%	1.7%
処置・治療・訓練	176	161	14.7	13.4	5.1%	4.9%
輸血	48	38	4.0	3.2	1.4%	1.2%
薬剤	1,404	1,328	117.0	110.7	40.5%	40.7%
ルート・チューブ	660	596	55.0	49.7	19.0%	18.3%
検査	310	320	25.8	26.7	8.9%	9.8%
転倒・転落	340	358	28.3	29.8	9.8%	11.0%
ME機器・医療器械	80	62	6.7	5.2	2.3%	1.9%
食事	92	94	7.7	7.8	2.7%	2.9%
その他	276	252	23.0	21.0	8.0%	7.7%
合計	3,466	3,264	288.8	272.0	100.0%	100.0%

### (4) インシデント報告の場所別内訳

場所	件数		月平均		構成比	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
病室	2,192	2,066	182.7	172.2	63.2%	63.3%
病棟処置室	38	30	3.2	2.5	1.1%	0.9%
廊下	48	70	4.0	5.8	1.4%	2.1%
トイレ	82	75	6.8	6.3	2.4%	2.3%
浴室	13	8	1.1	0.7	0.4%	0.2%
外来診察室・処置室	114	86	9.5	7.2	3.3%	2.6%
外来待合室	9	11	0.8	0.9	0.3%	0.3%
手術室	76	38	6.3	3.2	2.2%	1.2%
検査室	168	170	14.0	14.2	4.8%	5.2%
訓練室	0	3	0.0	0.3	0.0%	0.1%
薬剤部	83	90	6.9	7.5	2.4%	2.8%
ナースステーション	339	340	28.3	28.3	9.8%	10.4%
その他	304	277	25.3	23.1	8.8%	8.5%
合計	3,466	3,264	288.8	272.0	100.0%	100.0%

## 2 センター病院

### (1) インシデント報告の月別件数



### (2) インシデント報告の職種別内訳と提出率

職種	件数		月平均		構成比		提出率		職員数	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
医師	111	119	9.3	9.9	1.8%	2.1%	5.9%	6.7%	157	148
看護師	5,631	5,236	469.3	436.3	91.6%	90.9%	61.0%	57.6%	769	757
コ・メディカル	374	374	31.2	31.2	6.1%	6.5%	18.7%	19.1%	167	163
事務・その他	33	31	2.8	2.6	0.5%	0.5%	4.9%	5.1%	56	51
合計	6,149	5,760	512.4	480.0	100.0%	100.0%	44.6%	48.7%	1,149	1,119

※ 職員数は20年度(4月～3月)の月平均現在員数

※ 提出率(%)=(職種ごとの1ヵ月当たりの提出件数)÷(職員数)

### (3) インシデント報告の事象別内訳

事象	件数		月平均		構成比	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
手術・鎮静・麻酔	54	80	4.5	6.7	0.9%	1.5%
処置・治療・訓練	274	304	22.8	25.3	4.5%	5.3%
輸血	31	23	2.6	1.9	0.5%	0.4%
薬剤	2,028	1,742	169.0	145.2	33.0%	30.2%
ルート・チューブ	1,427	1,314	118.9	109.5	23.2%	22.8%
検査	495	407	41.3	33.9	8.1%	7.1%
転倒・転落	574	641	47.8	53.4	9.3%	11.1%
ME機器・医療器械	168	206	14.0	17.2	2.7%	3.6%
食事	264	210	22.0	17.5	4.3%	3.6%
その他	834	833	69.5	69.4	13.6%	14.5%
合計	6,149	5,760	512.4	480.0	100.0%	100.0%

### (4) インシデント報告の場所別内訳

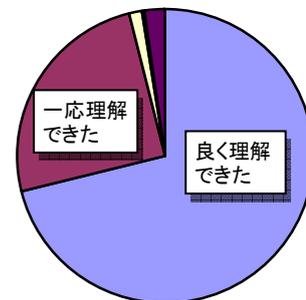
場所	件数		月平均		構成比	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
病室	4,407	4,173	367.3	347.8	71.7%	72.4%
病棟処置室	29	49	2.4	4.1	0.5%	0.9%
廊下	102	64	8.5	5.3	1.7%	1.1%
トイレ	81	79	6.8	6.6	1.3%	1.4%
浴室	29	26	2.4	2.2	0.5%	0.5%
外来診察室・処置室	120	138	10.0	11.5	2.0%	2.4%
外来待合室	7	7	0.6	0.6	0.1%	0.1%
手術室	72	66	6.0	5.5	1.2%	1.1%
検査室	310	274	25.8	22.8	5.0%	4.8%
訓練室	11	17	0.9	1.4	0.2%	0.3%
薬剤部	79	56	6.6	4.7	1.3%	1.0%
ナースステーション	543	456	45.3	38.0	8.8%	7.9%
その他	359	355	29.9	29.6	5.8%	6.2%
合計	6,149	5,760	512.4	480.0	100.0%	100.0%

## Ⅱ 入院患者アンケート調査結果（平成20年4月～平成21年3月）

### 1 附属病院

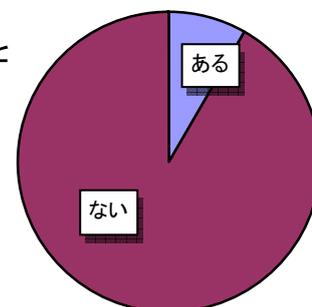
設問1 病状や治療方針の説明はわかり易かったですか

	20年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
良く理解できた	671	71.2%	75.1%
一応理解できた	236	25.0%	22.4%
余り理解できなかった	13	1.4%	0.7%
全く理解出来なかった	2	0.2%	0.0%
その他	21	2.2%	1.8%
合計	943	100%	100.0%



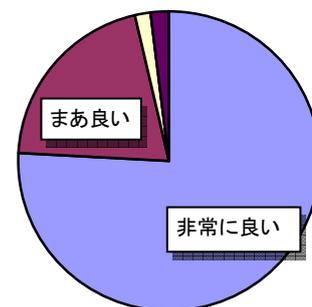
設問2 治療、検査、処置など診療全般について、医療安全管理上問題があったと思われたこと、その他、気づかれたことや不満に思われたこと

	20年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
ある	78	8.3%	10.5%
ない	865	91.7%	89.5%
合計	943	100%	100.0%



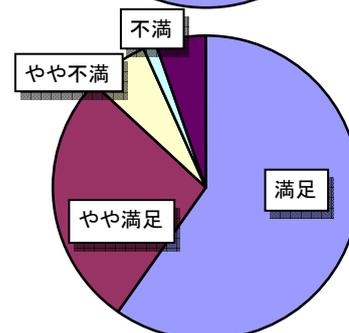
設問3 医師、看護師、薬剤師、技師などの対応について、どう感じたか

	20年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
非常に良い	715	75.8%	77.7%
まあ良い	193	20.5%	20.2%
やや悪い	17	1.8%	0.5%
非常に悪い	0	0.0%	0.4%
分からない	18	1.9%	1.1%
合計	943	100%	99.9%



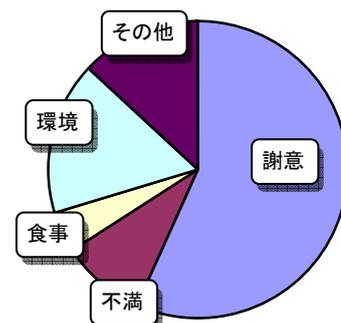
設問4 病室、トイレ、ディールーム、食事など療養環境について

	20年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
満足	562	59.6%	58.4%
やや満足	258	27.4%	29.3%
やや不満	59	6.3%	6.5%
不満	13	1.4%	2.1%
なんとも言えない	51	5.4%	3.7%
合計	943	100%	100.0%



設問5 その他の意見

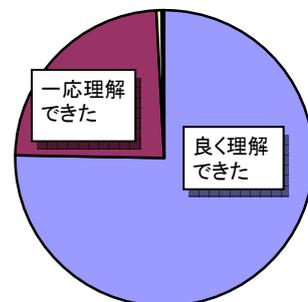
	20年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
医師、看護師等に対する謝意	486	56.6%	53.2%
医師、看護師等に対する不満	80	9.3%	12.1%
食事に関する要望	37	4.3%	10.6%
環境整備に関する要望	145	16.9%	20.1%
その他	111	12.9%	4.1%
合計	859	100%	100.0%



## 2 センター病院

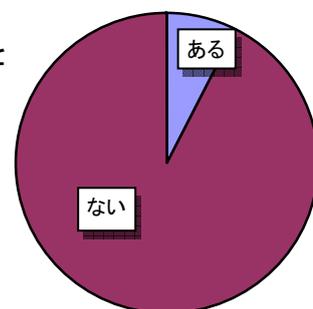
設問1 病状や治療方針の説明はわかり易かったですか

	20年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
良く理解できた	1,160	75.2%	74.7%
一応理解できた	368	23.8%	22.5%
余り理解できなかった	11	0.7%	1.0%
全く理解出来なかった	3	0.2%	0.2%
その他	1	0.1%	1.6%
合計	1,543	100%	100.0%



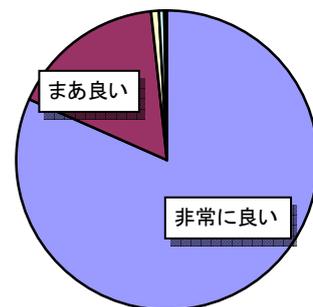
設問2 治療、検査、処置など診療全般について、医療安全管理上問題があったと思われたこと、その他、気づかれたことや不満に思われたこと

	20年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
ある	110	7.6%	8.6%
ない	1,332	92.4%	91.4%
合計	1,442	100%	100.0%



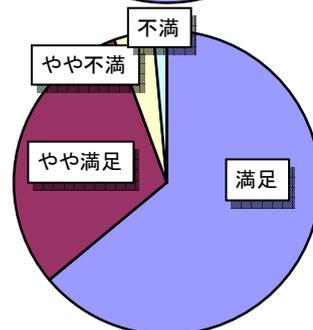
設問3 医師、看護師、薬剤師、技師などの対応について、どう感じたか

	20年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
非常に良い	1,270	81.7%	80.2%
まあ良い	261	16.8%	17.7%
やや悪い	12	0.8%	0.6%
非常に悪い	9	0.6%	0.2%
分からない	3	0.2%	1.3%
合計	1,555	100%	100.0%



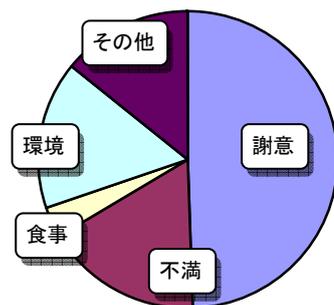
設問4 病室、トイレ、ディールーム、食事など療養環境について

	20年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
満足	988	63.9%	61.9%
やや満足	474	30.7%	30.8%
やや不満	63	4.1%	4.6%
不満	19	1.2%	1.3%
なんとも言えない	2	0.1%	1.5%
合計	1,546	100%	100.0%



設問5 その他の意見

	20年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
医師、看護師等に対する謝意	662	49.4%	45.9%
医師、看護師等に対する不満	227	17.0%	14.2%
食事に関する要望	45	3.4%	4.2%
環境整備に関する要望	214	16.0%	16.8%
その他	191	14.3%	18.9%
合計	1,339	100%	100.0%



### Ⅲ 主な改善検討事例

#### 1 附属病院

	検討項目	改善検討内容
1	医療安全管理体制の強化	医療安全管理室は、副病院長である統括安全管理者、安全管理指導者、薬剤師、看護師により実務を行っているが、医療の実務的な視点をより強化し運営を行っていくため、医師の統括安全管理者補佐を置いた。
2	「医療安全管理指針（共通編）第8版」発行	医療安全管理指針（共通編）第8版を全職員に配布し、リスクマネージャーを通じて職員各自に熟読するように周知した。 主な改訂点は次のとおりである。 ①安全管理の徹底6項目、②附属病院安全管理対策委員会要綱、③周術期肺血栓塞栓症対策マニュアル、④患者確認例、⑤在宅用人工呼吸器持ち込み時の届け出について等
3	「ポケット版 医療安全管理指針2008」の追補	医療安全管理指針のエッセンスをまとめた「ポケット版医療安全管理指針2008」について、安全管理の徹底6項目等の改訂部分を張り替え頁として配布した。
4	医療安全管理指針（共通編）電子カルテ稼働に伴う追補版発行	患者確認、確認会話、指示票の原則と運用、手術における安全対策と事故予防、薬剤に関する事項、輸血療法における安全対策等について、電子カルテ稼働に伴い内容を追補し発行した。
5	病院ホームページへの医療安全管理指針内容追加掲載	昨年度から、病院ホームページに順次掲載を開始した医療安全管理指針内容に、「中心静脈カテーテルについて」「肺塞栓血栓症対策マニュアル」を追加掲載した。
6	医療安全講演会ビデオ講演会の昼間開催	医療安全講演会を開催しているが、業務の都合などで参加できない職員向けに、ビデオ上映会を開催している。今年度は、ビデオ上映会を、これまでの夜間に加えて、昼休み時間を含む昼間にも開催している。
7	手術室術野映像・室内映像保存基準作成	中央手術室の无影灯にビデオカメラが組み込まれており、无影灯点灯と連動して自動的に録画開始されているが、記録媒体の容量もあることから約2ヶ月程度で書きがなされている。このため、DVDとして保存する手術映像の基準を定めた。
8	生体情報監視装置（患者モニター）のアラーム音量設定基準作成	医療者が、患者モニターのアラームをどのような状況でも認識できるように、音量設定について基準を作成した。
9	医療機器安全管理実施要綱制定	医療機器に関する研修、及び病院として把握管理する8種類の医療機器や各部署で把握管理する医療機器の保守点検等について要綱を定めた。
10	医薬品の安全使用のための業務手順書改訂	昨年度の医療法改正に伴い、院内各部門での手順書をもとに作成していた医薬品の安全使用のための業務手順書を、病院としての手順書として体系化し整備改訂した。
11	インシデントシステムの改ページ高速化	インシデントシステムの入力時に次頁に進むスピードの高速化により、入力の効率化を図った。
12	臨床倫理に関する方針（改訂）	「臨床倫理に関する方針」について、自己決定権の尊重、ガイドライン等を遵守した医療の提供、臨床上的倫理的課題や医学の発展のための臨床研究については臨床倫理委員会で検討・審議のうえ方針を決定する旨を明示した。

	検討項目	改善検討内容
13	臨床倫理委員会要綱(改訂)	臨床倫理委員会で審議することができる医療行為の内容について、具体例を示した。
14	周知文書用紙色について	院内で出される注意喚起の文書について、目立たせるために色用紙を使用している。受け取る側が、内容を把握しやすくするため、原則的に 医療安全管理室は黄色系、感染制御部は水色系、医薬品関係はピンク系を使用することとした。
15	電子メールによる薬剤関連医療安全情報の配信	薬事委員会速報、添付文書改訂情報、適正使用情報などの医薬品安全管理情報について、これまでの紙媒体による周知に加えて、電子メール配信による周知を平成21年1月から開始した。これにより、速やかに、確実に医療者に薬剤関係の安全情報を提供できる体制を整備した。
16	医療安全管理基本指針の改定	平成19年3月医療法施行に伴う厚生労働省通知に基づき、これまでの附属病院医療安全管理基本指針を組織・研修・改善の方針等の項目内容で整理し充実を図った。
17	内視鏡検査時の鎮静薬の使用法マニュアルの策定	患者さんに内視鏡検査を安心して受けていただくために、検査時に使用する薬剤の使用法、使用時の注意事項などを記載した同意書等を策定し、運用を開始した。
18	消化器内視鏡院内登録医制度	より安全な内視鏡医療を行っていくため、日本消化器内視鏡学会認定医について、院内登録を行う制度を開始した。
19	ドクターコール報告書、経過記録書式の策定	院内で患者急変時に、医師・看護師がかけつけて救命措置を行うドクターコール制度がある。本制度による事例を積み重ね、より高い救命活動を行っていくため、安全管理対策委員会の下にプロジェクトを置き検討を進めた。院内AED配置の充実の提言と、世界的な流れである救命措置を行った際の報告書・経過記録の書式の整備を図った。
20	手術室部門システムを活用した、安全で効率的な手術室への患者確認開始	手術室入り口交換ホールで患者確認を行い手術部へ患者を引き渡すこれまでの方法から、手術室に直接患者が入室し、手術部門システム画面で、麻酔科医師、診療担当医師、手術部看護師、病棟看護師が、患者自身とともに確認を行っていく方法を開始した。
21	手術室への歩行入室開始	手術室への患者入室方法について、これまでの車椅子、ストレッチャー、ベッドによる移送に加えて、歩行入室を開始した。歩行入室により、手術室へ向かう準備等の平均的な所要時間が短縮された。
22	病院ホームページへの医療安全管理基本指針等改定内容の掲載	医療安全管理指針の改訂に伴い、充実された医療安全管理基本指針、患者確認、組織体制について、更新を行った。
23	無停電電源装置の並列化更新	電源の点検時や装置故障時に、並列で電源を供給していくように更新することで、生命維持に関わる重要な医療機器等が停止することがなく、電源供給の信頼性をより高めた。
24	胃管・経管薬剤・栄養投与に関する事故予防マニュアルの整備	胃管に関する事故予防として、胃管留置の目的、挿入手順、気管迷入時の観察ポイントの他、経管薬剤・栄養投与に関する事故予防についても解りやすく整理したマニュアルを作成した。
25	新採用・転入者医療安全研修の年度途中の追加開催	新採用者・転入者に、本院の医療安全の考え方や各種ルールについての基礎研修会をこれまで4月に実施してきたが、今年度は、7月および10月に年度途中にも追加開催した。

	検討項目	改善検討内容
26	自殺予防対策として施設面の改善	各病室の窓について、消防署と調整の基、これまで25cm(非常時は全開になる)開く状態から、常時15cm開く状態へ全箇所改修をおこなった。
27	電子カルテ稼働に伴う改善 (1) 「患者確認の向上」	医療者による確認に加えて、バーコードを読み取る確認が加わり確認の確実性が増した。 (例) ・診療、検査、処置等での患者確認で、診察券や患者識別バンドのバーコードを読み込み、電子カルテ内容との照合 ・輸液を投与するときに、輸液に貼られたバーコードラベルと患者識別バンドのバーコードを読み取り、照合
28	電子カルテ稼働に伴う改善 (2) 「情報共有の向上」	医師記録と看護師記録が一体化され、医療職間の情報の共有の向上が図られた。
29	電子カルテ稼働に伴う改善 (3) 「抗ガン剤の安全な投与」	電子カルテレジメンシステムの導入により、抗ガン剤の投与に関して、投与スケジュールや投与量について管理できるようになり、連続誤投与や、過量投与を防げるようになり安全性が飛躍的に向上した。
30	電子カルテ稼働に伴う改善 (4) 「他部門との連携による情報共有と部門での業務の効率化」	電子カルテ導入に伴い12の部門システムを導入した。電子カルテと各部門システムにより、確認の確実性と迅速で正確な患者情報が可能になった。 部門システム:①放射線治療システム、②感染管理システム、③生理検査システム、④手術システム、⑤服薬指導システム、⑥患者案内板システム 他 (例)感染管理システムの場合:院内における分離菌発生状況の監視体制が充実したことにより早急な対応が可能になり感染防止対策の充実に繋がっている。 手術部門システムの場合:手術中の患者記録について手書きの記録から患者モニターの自動取り込みが可能になり記録の正確性が増した。

## 2 センター病院

	検討項目	改善検討内容
1	中心静脈カテーテル穿刺登録医の再教育	院内では一定の実施経験と所定の講習を終了した登録医師のみが、中心静脈穿刺を単独で実施出来る。この認定は、恒久的なものであるが、当事者の手技に問題がありインシデント報告等を提出すべき事象が発生した場合は、必要に応じて講習の再受講や技術指導者による技術確認を受けることとした。(ガイドラインおよび運用マニュアル改訂した)
2	口頭指示表の運用	原則として口頭指示は認めないが、止むを得ず口頭指示を行う場合には、看護師は口頭指示メモに指示内容を記載し、後に医師に指示表への記載を依頼する方法であった。今回それを改め、新たに作成した口頭指示表により、指示受け内容の記載と指示受けサインおよび指示出しの医師確認サインをその指示表に記録して、診療録に綴じることとした。
3	中央採血室での患者確認強化	中央採血室に於ける同姓同名患者間違い防止対策として、①整理券の配布、②多い苗字の方には、誕生日を確認する。③自動受付機の早期導入を促す。
4	閉鎖病棟の入院(入室)時の持ち込み物品管理マニュアル作成	精神医療センターの閉鎖病棟では、紐類の持ち込みを禁止しているが、紐付きパーカーや靴紐等の物品が本人および家族によって持ち込まれる事例が起ったため、閉鎖病棟・開放病棟用のチェックリストとマニュアルを作成した。
5	センターカー(当院の患者搬送車)の運用要領改訂	転院等でセンターカーで患者をストレッチャー搬送する際の注意事項を「センターカーに同乗する医師へ」の注意書作成し車内に配備した。また、搬送時の患者介助について臨床研修医に実施指導するとともに、「高度救命救急センターカー」運用要領を改訂した。
6	院内暴力への対応整備	患者・家族から医療従事者が受ける精神的・肉体的な暴力、痴漢行為、およびセクシャルハラスメント発生時の対応部署を明確にした。また、ポスターやステッカーを作成し、院内に掲示した。
7	「安全ポッケ」の作成	「理念」「基本方針」「患者さまの権利」「患者さまへのお願い」や「緊急時の連絡」等を入れた医療安全管理指針のポケット版(安全ポッケ)を作成し、全職員に配布した。
8	警備室の防犯カメラ改善と増設	危険予防と患者さんの安全確保のために、夜間・休日の出入り口の防犯カメラの個別認識が困難な画像状態であるため、防犯カメラの更新と新たな場所にも設置をした。
9	ネームバンドの記載運用の変更	ネームバンドへの記載は、原則、患者・家族が手書きすることとしていたが、IDの記載間違いを防止するために、医療者が診療券を使い、エンボッサーで印字することに変更した。記載事項が正しいかの確認は、患者・家族にID番号と氏名、生年月日を読み上げて貰い、医療スタッフは診療券を見て、双方で確認することにした。
10	身体抑制基準の改定	抑制基準を見直し、身体抑制用の指示表、患者・家族への説明書、抑制観察・評価シートを作成した。
11	同意と説明を再周知	検査や手術の際に説明すべき内容の見直しを行ない、医師対象に説明書作成のための研修会の開催と、「インフォームド・コンセント」や「説明すべき事項の基準」等の周知強化を図った。
12	医療安全管理指針の改訂	第1章 安全管理の考え方と体制(基本指針)、第2章 安全文化を育むための具体策、第3章医療安全管理の基本手順(院内共通)を見直し、平成20年8月に改訂版、Ver.7を発行した。

	検討項目	改善検討内容
13	「医薬品業務手順書」改訂	医薬品の安全管理に関する手順書を改訂した。①分割使用する医薬品の開封後の期限、②向精神薬・覚せい剤原料の紛失・盗難時の対応等を定めた。
14	使用量限定される薬剤のオーダー画面に注意表示	使用量が限定されている薬剤のオーダー画面に注意コメントを出すように設定した。(リュープリンキット3.75mg等)
15	処方オーダー画面に薬効を表示	類似薬品の入力ミス防止対策として3文字入力を推奨しているが、より安全性を強化するために画面に薬効(例えば、眠剤・抗てんかん薬など)を表示した。
16	「外来受診のご案内」・「入院のご案内」・「病棟のご案内」を見直し更新	「外来受診」・「入院」・「病棟」のご案内を見直し、説明内容の整合性を見直した。外来受診に関しては受診の方法をフロー図で示した。病棟のご案内に関しては、各入院先の診療科の医師体制を入れた。避難経路の説明をカラー表示として分かり易くした。
17	入院時における持参薬の識別～全病棟運用開始～	安全な薬物治療を推進するために、平成20年10月1日から、入院時に持参薬がある場合、薬剤部で持参薬の識別を、全ての病棟を対象に開始した。薬剤部では、持参薬指示表に薬品名、用法、用量、院内採用薬等を記載し、病棟に識別結果を提供している。 なお、緊急入院時には、直近の平日に薬剤部で持参薬識別を行うこととした。
18	外来化学療法室開設	外来でより質の高い化学療法を行うために、平成20年10月6日から外来化学療法室を開設し運用を開始した。 化学療法室では、化学療法を行う医師、がん薬物療法認定薬剤師や専任の看護師等が中心となって、点滴する薬剤の確認や調製、患者さんへの薬剤の説明、治療に伴って生じる症状の確認等を行ない、専門性の高いがん医療を提供するとともに、お薬手帳に治療内容を記載したシールを提供し、地域保険薬局や医療機関との情報共有を行っている。
19	胃瘻チューブ交換マニュアル整備	胃瘻チューブ交換の際に正確に挿入を確認するため、マニュアルの整備と胃瘻チューブの使用開始に際して許可方法のルール化をした。
20	血清カリウムの静脈内投与による補正方法ガイドライン改訂	集中治療病棟と手術室での運用を同じとし、使用条件を見直した。血清カリウム値が3.0mEq/L以下と利尿剤による強制利尿中であることを削除した。
21	暴力行為防止の一助として防犯機器整備	暴力行為等による危険の未然防止を目的とし、緊急避難のためにネットランチャーの使用を開始した。救急棟1階に2台設置し、運用マニュアルも作成した。
22	人工呼吸器回路交換の見直し	人工呼吸器回路の交換は、吐物や痰等で汚染する以外は回路交換は、1回/月とした。
23	部署の時計(時刻)確認	診療の記録をより正確に記載するため、部署にある時計を改めて確認して、表示が正確になるように調整した。また、一定期間ごとに部署内の時計を合わせることを推奨した。
24	精神医療センター内のアクセスコール送信機増設	患者から、医療従事者が暴力等を受けたときの対応を迅速かつ安全確保のために、携帯用アクセスコールを勤務者全員が身につけるように整備した。また、閉鎖病棟のコールが開放病棟にも通じるようにした。

# 参 考 資 料

(平成21年7月14日)

1 医療安全管理体制	.....	1
2 安全管理対策委員会の活動状況	.....	3
3 リスクマネジャー会議の活動状況	.....	7
4 安全管理研修の開催状況	.....	11
5 入院患者アンケート	.....	21

## 1 医療安全管理体制

### 医療安全管理の組織体制

#### ○統括安全管理者

副病院長の内の1名を任命し、病院における医療安全管理の推進、情報の収集・分析・評価等、医療安全管理活動の推進責任者として位置付けています。

#### ○安全管理指導者

統括安全管理者を補佐して、病院の医療安全管理全般にわたる指導、改善指示、職員研修の企画等を行う職として「安全管理指導者」を置き、日本で初の「医療安全管理学」教授（附属病院）、準教授（センター病院）をあてております。安全管理指導者は、医療安全管理学の学生教育も行っています。

#### ○安全管理者（リスクマネジャー）

医療安全管理に関する職場点検、業務改善、教育・指導、事故発生時の対応及び報告等を行うため、各病院の「医療安全管理室」に安全管理担当係長を2名（看護師、薬剤師）配置しているほか、診療部門・看護部門等の各部門に70余名の安全管理者（リスクマネジャー）を配置しています。

### 安全管理の推進のための委員会活動

#### ○安全管理対策委員会

統括安全管理者を委員長として、病院の医療安全管理活動を推進する中心として活動しており、インシデント報告の検討、改善策の検討と評価、医療安全管理の情報収集等を行っています。

#### ○リスクマネジャー会議

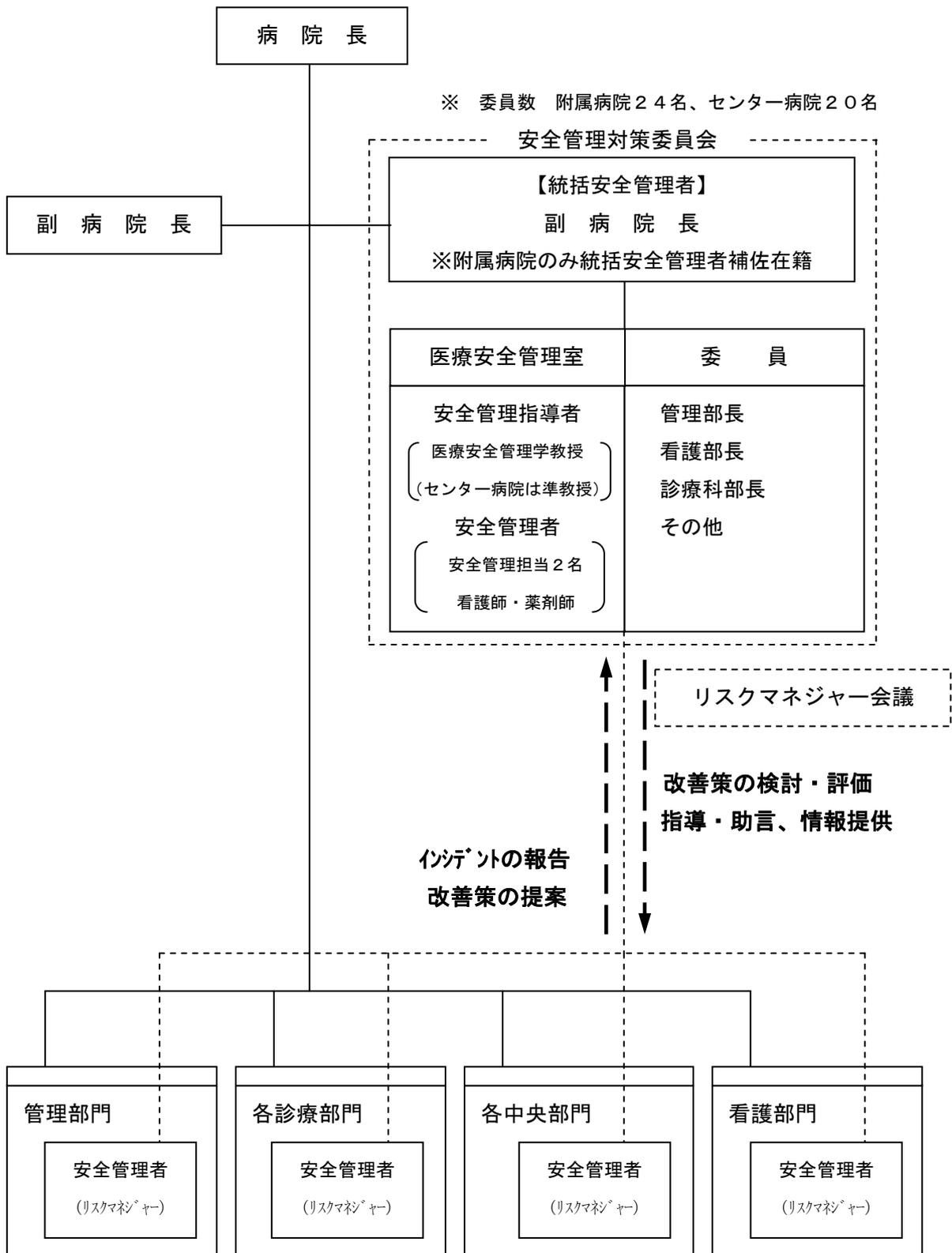
インシデント事例についての検討、各部署の取組の紹介、改善策の周知、「事故予防マニュアル」の作成、医療安全管理の情報提供等を行い、職員の安全管理意識を高める場としています。

### インシデント報告システム

病院の日常業務の中で、医療事故につながりかねない「ヒヤリ、ハット」したできごと（インシデント）を医療従事者が自主的に報告し、その情報をもとに、事故を未然に防ぐための改善策を確立するシステムです。

報告は、各部門のリスクマネジャーから医療安全管理室に報告され、安全管理対策委員会とリスクマネジャー会議を通じて改善策の検討と周知などを行っています。

# 市立大学附属2病院 安全管理体制図



※ 各部門のリスクマネジャー 附属病院65名、センター病院75名  
(委員等の人数は平成21年4月1日現在)

## 2 安全管理対策委員会の活動状況

### 附属病院

開催日		主な議題
第1回	4月14日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成20年度 安全管理対策委員会 委員について</li> <li>2 平成20年度 安全管理対策委員会 日程について</li> <li>3 医療関連ニュース（3月13日～4月2日）</li> <li>4 平成20年度の医療安全の取り組み</li> <li>5 平成20年度リスクマネージャー会議分科会テーマについて</li> <li>6 新採用職員対象 医療安全研修開催結果について</li> <li>7 停電ワーキングからの報告</li> </ol>
第2回	5月12日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（4月7日～4月23日）</li> <li>2 医療安全管理講演会について</li> <li>3 重要な周知文書の使用色について</li> <li>4 医療安全管理指針の患者さんの閲覧について</li> <li>5 事例検討</li> </ol>
第3回	5月26日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（4月25日～5月14日）</li> <li>2 医療安全講演会について</li> <li>3 附属病院ホームページ医療安全の頁への指針内容の追加掲載について</li> <li>4 手術室術野映像の保存基準について</li> <li>5 電子カルテについて</li> </ol>
第4回	6月9日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療機関用介護用ベッドのサイドレール・手すりについて</li> <li>2 厚生労働省特定機能病院会議報告について</li> <li>3 採血用穿刺器具について</li> <li>4 電子カルテについて</li> </ol>
第5回	6月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（5月16日～5月28日）</li> <li>2 第2回医療安全講演会について</li> <li>3 自殺防止対策について</li> <li>4 心配蘇生AED研修会の日程について</li> </ol>
第6回	7月14日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（6月12日～7月2日）</li> <li>2 医薬品安全管理の今年度の予定について</li> <li>3 電子カルテについて</li> <li>4 第1回医療安全講演会ビデオ上映会参加状況について</li> <li>5 事例検討、「確認の徹底」について</li> </ol>
第7回	7月28日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（7月3日～7月16日）</li> <li>2 医療機器安全管理実施要綱について</li> <li>3 医薬品の安全使用のための業務手順書について</li> <li>4 事例検討について</li> </ol>
第8回	9月22日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（8月28日～9月10日）</li> <li>2 統括安全管理者補佐について</li> <li>3 平成20年度の医療安全講演会について</li> <li>4 厚生労働省通知「医療事故情報収集等事業」について</li> <li>5 ドクターコールプロジェクトの設置について</li> <li>6 アラーム音量設定のルールについて</li> </ol>
第9回	10月27日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（平成20年9月26日～平成20年10月14日）</li> <li>2 医療安全講演会について</li> <li>3 医療安全巡回について</li> <li>4 電子カルテについて</li> <li>5 手術部門入室システムについて</li> </ol>

開催日		主な議題
第10回	11月18日	1 医療関連ニュース（平成20年10月23日～平成20年11月12日） 2 抗がん剤の処方の入力について 3 医療安全講演会について 4 放送設備、緊急地震速報等について 5 給湯設備について 6 医療監視指導事項について
第11回	12月8日	1 医療関連ニュース（平成20年11月13日～平成20年11月26日） 2 医療安全講演会について 3 毒物災害時の医療体制について 4 手術室入室システム検討プロジェクト 5 事例検討
第12回	12月22日	1 医療関連ニュース（平成20年11月27日～平成20年12月10日） 2 医療安全講演会について 3 医療安全管理指針の主な改訂内容について 4 災害に備えた病院機能について 5 内視鏡検査実施時の薬剤検討プロジェクトについて 6 電子カルテについて
第13回	1月26日	1 医療関連ニュース（平成20年12月11日～平成21年1月9日） 2 医療安全講演会について 3 手術室入室システム検討プロジェクト 検討状況について 4 ドクターコールプロジェクト 検討結果報告 5 医療安全管理指針の改訂について 6 内視鏡検査実施時の薬剤検討プロジェクト 検討結果報告 7 消化管内視鏡医療実施指針について 8 事例検討
第14回	2月9日	1 医療関連ニュース（平成21年1月15日～平成21年1月27日） 2 医療安全講演会について 3 平成21年度新採用・転入者向け医療安全研修について 4 電気工事に伴う停電について 5 医療安全管理指針の主な改訂について 6 消化管内視鏡医療実施指針について 7 医薬品安全管理手順書について
第15回	2月23日	1 医療関連ニュース（平成21年1月30日～平成21年2月10日） 2 手術室入室システム検討プロジェクト 検討結果報告 3 医療安全管理指針主な改訂について 4 消化管内視鏡医療実施指針について 5 後発医薬品への切り替えについて
第16回	3月23日	1 医療関連ニュース（平成21年2月20日～平成21年3月9日） 2 手術室入室システムの本格運用について 3 電子カルテについて 4 血液製剤の安全な供給について 5 平成20年度医療安全の取り組みについて

## センター病院

開催日		主な議題
第1回	4月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（3月分）の検討</li> <li>2 安全管理巡回結果報告</li> <li>3 口答指示メモについて（口頭指示表の作成と運用）</li> <li>4 検査・処置・手術の同意書について（記載内容の見直し）</li> <li>5 患者安全管理推進ジャーナルについて</li> </ol>
第2回	5月12日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（4月分）の検討</li> <li>2 中心静脈カテーテル挿入・留置に関するガイドラインおよび運用にマニュアルの改訂について</li> <li>3 レスピレーションサポートチーム巡回報告</li> <li>4 紹介状のない初診患者の対応について</li> <li>5 ネームバンドをカットした場合の扱いについて</li> </ol>
第3回	6月9日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（5月分）の検討 621件と600件を超え、過去最高報告件数</li> <li>2 医薬品・医療機器安全管理責任者報告（今月より開始）</li> <li>3 「医療安全全国共同行動」への参加について</li> <li>4 CVカテーテル穿刺登録医について</li> <li>5 「センターカーに同乗のドクターへ」について</li> </ol>
第4回	7月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（6月分）の検討</li> <li>2 救急カートの点検について</li> <li>3 シリンジポンプの流量設定について</li> <li>4 オーダー時類似薬品名の注意喚起について</li> <li>5 ポケット版医療安全について</li> </ol>
第5回	8月11日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（7月分）の検討</li> <li>2 外来処方オーダー時の「登録&amp;発行」アイコンでの処方箋発行について</li> <li>3 持参薬の確認について</li> <li>4 敷地内禁煙の考え方について</li> <li>5 医療安全管理指針の改訂について</li> </ol>
第6回	9月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（8月分）の検討</li> <li>2 患者からの暴力・セクハラについて</li> <li>3 緊急報告書の案件について</li> <li>4 医療機器取り扱い研修について（継続研修）</li> </ol>
第7回	10月6日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（9月分）の検討</li> <li>2 公表事例報告</li> <li>3 医薬品・医療機器安全管理責任者報告</li> <li>4 レスピレーションサポートチーム報告</li> </ol>
第8回	11月10日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（10月分）の検討</li> <li>2 医薬品・医療機器安全管理責任者報告</li> <li>3 レスピレーションサポートチーム報告</li> <li>4 血清カリウムの補正方法ガイドラインについて</li> <li>5 安全管理巡回報告</li> </ol>
第9回	12月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（11月分）の検討</li> <li>2 公表判定委員会報告</li> <li>3 医薬品医療機器安全管理責任者報告 ・災害時に向けた医薬品、医療機器の整備について</li> <li>4 レスピレーションサポートチーム報告</li> <li>5 血清カリウムの補正方法ガイドラインについて</li> </ol>
第10回	1月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インシデント報告（12月分）の検討</li> <li>2 医薬品・医療機器安全管理責任者報告</li> <li>3 レスピレーションサポートチーム報告</li> <li>4 安全管理巡回について</li> </ol>

開催日		主な議題
第11回	2月9日	1 インシデント報告（1月分）の検討 2 医薬品・医療機器安全管理責任者報告 3 レスピレーションサポートチーム報告 4 平成21年度予定について 5 防犯機器ネットランチャーについて
第12回	3月9日	1 インシデント報告（2月分）の検討 2 医薬品・医療機器安全管理責任者報告 3 レスピレーションサポートチーム報告 4 救急体制検討委員会 心肺蘇生部会の位置づけについて

### 3 リスクマネジャー会議の活動状況

#### 附属病院

開催日		主な議題
第1回	4月21日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成20年度 リスクマネジャー紹介、会議日程</li> <li>2 平成20年度医療安全の取り組みとリスクマネジャーの役割について</li> <li>3 分科会について</li> <li>4 医療安全巡回について</li> <li>5 新採用・転入者医療安全研修について</li> <li>6 医療安全講演会について</li> </ol>
第2回	5月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（4月5日～4月18日）</li> <li>2 医療安全講演会について</li> <li>3 通知文紙色について</li> <li>4 医療安全管理指針の閲覧について</li> <li>5 電子カルテについて</li> <li>6 事例検討</li> <li>7 分科会</li> </ol>
第3回	6月2日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（4月25日～5月14日）</li> <li>2 医療安全講演会ビデオ上映会について</li> <li>3 医療安全巡回について</li> <li>4 電子カルテについて</li> <li>5 事例検討</li> <li>6 分科会</li> </ol>
第4回	7月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（5月29日～6月11日）</li> <li>2 医療安全巡回について</li> <li>3 平成19年度医療安全記者発表内容について</li> <li>4 電子カルテについて</li> <li>5 事例検討</li> <li>6 分科会</li> </ol>
第5回	9月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（7月31日～8月26日）</li> <li>2 医療安全巡回について</li> <li>3 平成20年度医療安全講演会について</li> <li>4 医薬品安全管理の各部門での点検について</li> <li>5 分科会</li> </ol>
第6回	10月6日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（平成20年9月11日～9月24日）</li> <li>2 統括安全管理者補佐の設置について</li> <li>3 医療安全講演会について</li> <li>4 新採用者・転入者職員向け 医療安全研修について</li> <li>5 医薬品安全使用に係る基礎研修会について</li> <li>6 生体情報監視装置（患者モニター）のアラーム音量設定について</li> <li>7 上半期のインシデント報告について</li> <li>8 医療安全巡回について</li> <li>9 ドクターコールプロジェクトの設置について</li> <li>10 各分科会の検討状況について</li> </ol>
第7回	11月10日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（平成20年10月7日～10月22日）</li> <li>2 厚生労働省医療監視について</li> <li>3 医療安全講演会について</li> <li>4 事例検討</li> </ol>
第8回	12月1日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療関連ニュース（平成20年11月6日～11月18日）</li> <li>2 医療安全講演会について</li> <li>3 抗ガン剤のオーダーについて</li> <li>4 電子カルテについて</li> <li>5 事例検討</li> </ol>

開催日		主な議題
第9回	1月19日	1 医療関連ニュース（平成20年12月11日～平成21年1月7日） 2 医療安全講演会等について 3 医療安全講演会出席状況 部署作成一覧表について 4 関東信越厚生局主催「医療安全調査委員会（仮称）に関するシンポジウム」について 5 ドクターコールプロジェクトから中間報告 6 事例検討
第10回	3月2日	1 医療関連ニュース（平成21年1月30日～平成21年2月12日） 2 部門内検討状況報告書の提出状況について 3 医療安全講演会について 4 平成21年3月7日（土）電気工事のための停電について 5 薬事委員会から、医薬品の採用について 6 新採用者・転入者医療安全研修について 7 医療安全管理指針改訂概要について 8 内視鏡関連のルールについて 9 ドクターコールプロジェクト 検討結果報告について 10 平成20年度 医療安全の取り組みについて

## センター病院

開催日		主な議題
第1回	4月14日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第96回安全管理委員会（4／7）報告</li> <li>2 インシデント報告（3月分）</li> <li>3 口頭指示表について</li> <li>4 トイレにおける転倒転落について</li> <li>5 新任リスクマネージャー オリエンテーション</li> </ol>
第2回	5月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第97回安全管理委員会（5／12）報告</li> <li>2 インシデント報告（4月分）</li> <li>3 外来（中央採血室）における同姓同名患者への対応について</li> <li>4 ネームバンドの運用について</li> <li>5 中心静脈挿入・穿刺に関するガイドラインおよび運用マニュアルについて</li> <li>6 医療安全全国共同行動について</li> </ol>
第3回	6月16日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第98回安全管理委員会（6／9）報告</li> <li>2 インシデント報告（5月分）</li> <li>3 「センターカー同乗時のドクターへ」について</li> <li>4 グループワーク 暴力対策、指示表、転倒・転落、患者確認</li> </ol>
第4回	7月14日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第99回安全管理委員会（7／7）報告</li> <li>2 インシデント報告（6月分）</li> <li>3 今月より、院外でのインシデント・アクシデント報告を開始</li> <li>4 リスクマネージャーが各部門で行っている安全管理関連業務のアンケートを依頼</li> <li>5 「安全機能付き器材の説明会」を開催</li> </ol>
第5回	9月16日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第100回、101回安全管理委員会（8／11，9／7）報告</li> <li>2 インシデント報告（7、8月分）</li> <li>3 医療安全管理指針の改訂について（指針を配布）</li> <li>4 アレルギーに関する事例検討</li> </ol>
第6回	10月14日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第102回安全管理委員会（10／6）報告</li> <li>2 インシデント報告（9月分）</li> <li>3 医療安全管理指針の一部変更について</li> <li>4 グループワークについて</li> <li>5 事例検討</li> </ol>
第7回	11月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第103回安全管理委員会（11／10）報告</li> <li>2 インシデント報告（10月分）</li> <li>3 血清カリウムの補正ガイドラインについて</li> <li>4 リスクマネージャー会議出席状況について</li> <li>5 事例検討</li> </ol>
第8回	12月22日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第104回安全管理委員会（12／8）報告</li> <li>2 インシデント報告（11月）</li> <li>3 血清カリウムの補正ガイドラインについて</li> <li>4 1月の行動目標について</li> <li>5 グループワーク 危険薬の誤投与防止、転倒・転落、医療関連感染症の防止、 事例要因分析から改善へ、急変時の迅速対応、患者・市民の医療参加</li> </ol>
第9回	1月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第105回安全管理委員会（1／13）報告</li> <li>2 安全管理巡回について</li> <li>3 2月の行動目標について</li> <li>4 事例検討</li> </ol>
第10回	2月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第106回安全管理委員会（2／9）報告</li> <li>2 リスクマネージャー変更届について</li> <li>3 3月の行動目標について</li> <li>4 事例検討</li> </ol>

開催日		主な議題
第11回	3月23日	1 第107回安全管理委員会（3／9）報告 2 安全管理巡回について 3 グループワークについて 4 4月の行動目標について 5 事例検討

## 4 安全管理研修の開催状況

### 附属病院

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
新採用・転入職員 医療安全管理研修 会およびビデオ上 映会	4/7, 4/15, 4/30 (2回), 7/1 10/23	新採用・ 転入職 員、 前期研修 医2年 目、後期 研修医、 大学院生	127名 16名 20名 6名 6名	各日 2 時間	「病院理念」 講師：病院長 「附属病院の医療安全管理」 講師：佃 守（副病院長、統括 安全管理者） 「医療安全管理」 講師：橋本 廸生（医療安全管理学教授） 「インシデント報告システム、医療安全の実際」 講師：荒井 稔（医療安全管理室担当課長） 「手術治療検査における医療安全」 講師：菊地龍明（手術部准 教授） 「放射線診療における医療安全」 講師：雫石一也（放射線部助 教） 「研修医の指導に際して」 講師：青木照子（臨床研修センター 副センター長） 「電子カルテについて」 講師：根本明宣（医療情報部長） 「職員として知っておく感染管理」 講師：満田年宏（感染制御 部長） 「薬剤に関する安全管理」 講師：小池博文（薬剤部担当係 長） 「診療録の記載とインフォームドコンセント」 講師：水落和也（リハビリテーション科部長）
平成20年度研修医 オリエンテーショ ン	4/1	研修医 (1年次)	37名	1 時間	「医療安全の基本理論」 講師：橋本 廸生（医療安全管理学教授）
平成20年度研修医 オリエンテーショ ン	4/4	研修医 (1年次)	37名	1.5 時間	「輸血の安全」 講師：前田清子（輸血部担当係長）、上條亜紀（輸血部准教 授） 「臨床検査の安全管理」 講師：荏原 茂（臨床検査部技師長）、渡邊眞一郎（臨床検査 部部長） 「外来化学療法 of 安全管理」 講師：宮城悦子（化学療法センター長）
平成20年度研修医 オリエンテーショ ン	4/8	研修医 (1年次)	37名	1 時間	「手術室の医療安全・患者確認」 講師：菊地龍明（手術部准教授） 「肺塞栓とその予防」 講師：石上友章（循環器内科准教授）
平成20年度研修 医・新採用看護師 オリエンテーショ ン	4/7	研修医 (1年次) 新採用 看護師	37名 66名	6.8 時間	「放射線の安全管理について」 講師：雫石 一也（放射線部助教） 「院内感染対策」 講師：満田 年宏（感染制御部長） 「附属病院の医療安全について、医療安全演習」 講師：荒井 稔・下之菌ルリ子（医療安全管理室担当課長） 「気道確保」 講師：中村京太（救急部准教授） 「心身の健康と自己管理」 講師：平安 良雄（精神医学教授）
第1回医療安全講 演会およびビデオ 上映会	5/27, 6/10 (5回), 6/11 (2回), 6/12 (2回)	全職員	377名 114名 42名 56名	各日 1.5 時間	テーマ「東京慈恵会医科大学附属病院での医療安全の取り組 み」 講師：落合 和徳（東京慈恵会医科大学附属病院 副病院長 医療安全管理部長）

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
第2回医療安全講演会およびビデオ上映会	9/29, 10/14, 10/23 (3回), 10/30 (2回), 11/4	全職員	344名 85名 153名 87名 4名	1.5時間	テーマ「薬剤に関する医療安全」 講師：「持参薬について」リウマチ血液感染症内科：藤田浩之（リウマチ血液感染症内科准教授） 「化学療法の安全管理」化学療法センター：宮城悦子（化学療法センター長） 「持参薬について」看護部：杉浦由美子（看護部副看護部長） 「医薬品の医療安全への取り組み」薬剤部：西川能治（薬剤部課長補佐） 「電子カルテ下の薬剤医療安全」安全管理室：下之菌ルリ子（医療安全管理室担当課長）
第3回医療安全講演会	10/20	全職員	353名	1.5時間	テーマ「横浜市立大学医学部における医療倫理 今私たちに投げかけられた問題とは？」 講師：医学部長：梅村 敏 医学部倫理委員会委員長：平原史樹 臨床試験支援管理室長：棗田 豊
第4回医療安全講演会およびビデオ上映会	11/11, 12/26 (2回)	全職員	273名 63名	1.5時間	テーマ「病院内の自殺事故：その対応と予防」 講師：精神医学准教授・診療部長補佐：河西 千秋
第5回医療安全講演会	12/17	全職員	175名	1.5時間	テーマ「病院建築設備のリスクマネジメント」 講師：福祉住環境コーディネーター・一級建築士 金谷直正
第6回医療安全講演会およびビデオ上映会	1/13 2/4, 2/6 (3回), 2/12	全職員	238名 44名 59名 34名	2時間	テーマ「患者取違え事故10年前を振り返るそしていま、インシデント事例から学ぶ医療安全の取り組み」 〈第一部〉医療安全の取り組み ①エクセラゼの事例から ②胸腔ドレーン装置の事例から ③内視鏡実施時の薬剤使用について 講師：循環器内科RM 山川陽平, 8-4病棟RM 高橋邦恵, 薬剤部RM 西川能治, 医療機器安全管理責任者 大塚将秀, 内視鏡薬剤使用プロジェクトリーダー 大塚将秀  〈第二部〉平成11年1月11日に何が起こったか！ 講師：佃 守（統括安全管理者） 橋本廸生（安全管理指導者）
第7回医療安全講演会	2/2 2/13	全職員	140名 13名		テーマ「リスクマネージャ分科会報告会」 講師：第1分科会「確認の徹底」 高橋 邦恵、菊地 龍明 第2分科会「症例分析」 稲葉 裕 第3分科会「説明と同意」 友永 知恵  外来化学療法インシデント報告 宮城 悦子
医療安全ミニセミナー	12/9 12/11	研修医 看護師	32名 31名	各 0.5時間	テーマ「胸腔ドレーンの管理について」 講師：下之菌ルリ子（医療安全管理室担当課長） 大塚将秀（集中治療部准教授、医療機器安全管理責任者）
研修指導医医療安全研修	7/1 10/7 2/3	研修指導 医	30名 30名 30名	0.25時間	「最近のインシデント事例から」 講師：荒井 稔（医療安全管理室担当課長） 下之菌ルリ子（医療安全管理室担当課長）

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
研修医医療安全研修	9/18 10/23	研修医	37名 30名	1 時間 0.25 時間	9/18テーマ「麻薬の適切な使用法」 講師：西川能治（薬剤部課長補佐） 10/23テーマ「最近のインシデント事例から」 講師：荒井 稔（医療安全管理室担当課長）
心肺蘇生+AED 研修	9/18 10/9 11/27 12/11 1/29 2/19	全職員	14名 15名 15名 10名 14名 8名	2 時間	内容：人工呼吸、心臓マッサージ、自動体外式除細動器の使用 について 講師：中村京太（麻酔科准教授）、紙谷義孝（麻酔科医師）、 院内インストラクター（医師・看護師）
中心静脈カテーテル 挿入講習会	4/28 5/13 12/2	研修医・ 医師	35名 25名 5名	各2 時間	講師：菊地龍明（手術部准教授）、秋山浩利（乳腺外科・臨床 腫瘍科准教授）
医薬品安全管理に 係る基礎研修会	11/18	研修医・ 看護師	12名	2 時間	テーマ：「医薬品に係る基礎知識」 講師：7-4病棟看護師長：加藤 弘美、薬剤部課長補佐：西 川能治
職業感染防止研修	11/4 12/11  12/9 12/11	看護師  研修医	23名 29名  21名 14名	各 0.3 時間  各1 時間	テーマ：「職業感染防止 安全器財の使用」 講師：満田年宏・岡崎悦子（感染制御部）
感染対策講演会ビ デオ上映会	7/29, 30,31 (各2 回)	全職員	77名 110名 88名	各 1 時間	平成20年3月11日開催「針刺し切創・血液体液曝露による感染 の防止 公務・労働災害防止の視点も含めて～最近の話題から ～」ビデオ上映 講師：吉川 徹（財）労働科学研究所 国 際協力センター）
感染対策講演会ビ デオ上映会	11/25  12/15* 16*18* *:昼夜 開催	全職員	218名 289名 (6回 計)	各 1 時間	テーマ：「冬場の感染対策 ～ノロウイルスやインフルエンザ 対策を中心に～」 講師：菅野みゆき（東京慈恵会医科大学附属病院）
感染対策懇話会 (第20回)	3/13	全職員	158名	1 時間	テーマ：「医療環境における消毒と滅菌のリスクマネジメント」 講師：尾家重治（山口大学医学部附属病院）
人工呼吸器研修 レベルⅠ	5/23 6/27 9/26 11/7	看護師・ 研修医	21名 12名 16名 12名	2 時間	テーマ「人工呼吸器研修レベルⅠ」 人工呼吸器教育・研修プロジェクト主催 講師：大塚将秀（集中治療部准教授、医療機器安全管理責任 者）、並木陽明・伊藤藤洋・水越加奈子（臨床工学技士）
人工呼吸器研修 レベルⅡ	6/6 10/31 12/5	看護師・ 研修医	15名 12名 11名	2 時間	テーマ「人工呼吸器研修レベルⅡ」 人工呼吸器教育・研修プロジェクト主催 講師：大塚将秀（集中治療部准教授、医療機器安全管理責任 者）、並木陽明・伊藤藤洋・水越加奈子（臨床工学技士）
MR磁場体験研修	2/14 3/17	全職員	7名 8名	1 時間	テーマ「MRⅠ磁場の医療安全」講義および実習 講師：比佐雄久・榎本わか子（放射線技師）

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
看護部教育研修 ステップⅠ	4/9 4/10 4/11	看護師	70名 70名 70名	各6 時間	内容：寝衣交換、酸素療法、バイタルサイン、吸引、移送 他 講師：野村明美、塚越みどり（基礎看護学）、藤波富美子、 加藤弘美、佐々木佳代（看護師長）看護部教育研修委員会委員 内容：輸血、麻薬、経口与薬、静脈採血 講師：上條亜紀（輸血部准教授）、西川能治（薬剤部課長補 佐）、藤波富美子（看護師長）、看護部教育研修委員会委員 内容：日常的に使用するME機器の使用手順 講師：並木陽明（臨床工学技士）他 内容：ミキシング、輸液管理 他 講師：鈴木明子、友永知恵、藤波富美子（看護師長）、看護 部教育研修委員会委員
看護部教育研修 ステップⅡ	5/29 5/30	看護師	35名 31名	各2 時間	テーマ「急変時の看護について」 内容：急変時に対応できる基礎知識と技術を学ぶ。報告・連 絡・相談の大切さを理解できる。 講師：（集中ケア認定看護師）飯田八重子、後藤祐子、稲葉 桜、細路史子
看護部教育研修 ステップⅢ	6/6 6/10	看護師	36名 35名	3.5 時間	テーマ「ストレスと上手につき合おう」 内容：今の自分のストレス状況を知り、ストレスマネジメント のヒントを得、「語り、聴く」ことにより体験を共有する。 講師：福田紀子（リエゾン精神看護専門看護師）
看護部教育研修 ステップⅣ	7/9 7/16	看護師	36名 32名	各7 時間	テーマ「フィジカルアセスメント」 内容：患者さんに今なにか起きているかを知り、問診、視診、 聴診、打診、触診の基本的な技術を理解し、症状変化の視点に 気づくこと。適切な言語・表現を用いて、報告相談するための 視点を理解する。 講師：塚越みどり（基礎看護学 准教授）
看護部教育研修 ステップⅤ	11/19 11/26	看護師	32名 33名	各7 時間	テーマ「看護場面におけるリスクについて学び、安全な看護が できる」 内容：リスクを予知し気づくことの大切さを学び、そのスキル を身につけるための危険予知トレーニングを学ぶ 講師：下之菌ルリ子（医療安全管理室担当課長）
看護部教育研修	6/30 3/4	看護師	32名 31名	各 1日	テーマ「プリセプターシップ」 内容：プリセプターシップ機能を理解する。 講師：平田明美（看護学科 准教授）
看護部教育研修	1/23	看護師	18名	1日	テーマ「看護に活かすコミュニケーション」 内容：患者家族、医療チームにおける相互理解について学ぶ。 講師：福田紀子（リエゾン精神看護専門看護師）
看護部 フィジカルアセス メント研修A・B	8/22 8/25	看護師	14名 10名	各4 時間	テーマ「フィジカルアセスメント」 内容：聴診技術を習得し異常音と関連する病態について理解す る。患者の状態を把握するためのモニタリングを理解する。研 修Bでは、これらに加えて、病状のアセスメントや看護チーム のリーダーとして判断ととるべき行動を理解する。 講師：中村京太（麻酔科准教授）、塚越みどり（基礎看護学 准教授）

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
看護部 医療安全管理者 養成講習会	11/14 11/28 12/5 12/12 12/19	看護師	各回 19名	各日 8 時間	<p>11月14日            テーマ「医療安全の基本概論」            講師：橋本廸生（医療安全管理学教授）</p> <p>テーマ「横浜市立大学附属病院の安全管理の取り組み」            講師：下之蘭ルリ子（医療安全管理室担当課長）、加藤弘美（師長 リスクマネジャー）、小幡敏枝（師長 リスクマネジャー）、友永知恵（師長 リスクマネジャー）</p> <p>11月28日            テーマ「医療安全文化の醸成と職員教育」            講師：橋本廸生（医療安全管理学教授）</p> <p>テーマ「医療安全管理に関する法的責任・医療訴訟の現状と対応」            講師：高井佳江子（弁護士 高井法律事務所）</p> <p>12月5日            テーマ「医療安全とコミュニケーション」            講師：杉本なおみ（慶応義塾大学看護医療学部 教授）</p> <p>テーマ「医療安全管理者の役割と実際」「安全管理体制医の組織的構築と事故発生後の対応・医療コンフリクトマネジメント」            講師：花井恵子（北里大学病院 安全管理室科長）</p> <p>12月12日            テーマ「患者参加型の医療安全について」            講師：山内桂子（東京海上日動メディカルサービス主席研究員）</p> <p>テーマ「看護業務とリスクアセスメント」            講師：安井はるみ（神奈川県看護協会 医療安全対策課課長）</p> <p>12月19日            テーマ「ヒューマンファクターと安全文化」            講師：左相邦英（電力中央研究所ヒューマンファクター研究センター 上席研究員）</p>

## センター病院

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
新任医師 オリエンテーション	4/1 4/2	新任医師	93名	各 1.5 時間	講義：知っておきたい病院の基本、院内の情報伝達、医療情報、安全管理、感染対策、看護について、医薬品・医療機器等の取り扱い等 講師：石戸谷副病院長、金子副病院長、斉藤総合診療科部長、古川医療情報部長、大木手術部長、小出麻酔科部長、長谷川総合診療科部長、森山副看護部長、米村庶務担当係長、青木医事請求担当係長、今井施設担当係長、斉藤物品担当係長
新採用者 オリエンテーション	4/3 4/4 4/7	新採用看護職	63名	各 2.0 時間	講義：看護部方針、看護体制、教育プログラム、安全管理、感染管理、情報管理、組織における役割・心構えと行動など 講師：佐藤看護部長、大嶋副看護部長、岡田副看護部長、谷川副看護部長、森山副看護部長、野水看護師長、鈴木美智子看護師長、吉澤看護師長、久保看護師長、長田看護師長、教育委員会看護師長
臨床研修医 オリエンテーション	4/7, 8 9, 10, 11, 14 15, 16, 17, 18 (10日間)	一年次臨床研修医	93名	各 1.5 時間	講義：知っておきたい病院の基本、院内の情報伝達、医療情報、安全管理、感染対策、看護について、医薬品・医療機器等の取り扱い等 講師：石戸谷副病院長、金子副病院長、斉藤総合診療科部長、古川医療情報部長、大木手術部長、小出麻酔科部長、長谷川総合診療科部長、森山副看護部長、米村庶務担当係長、青木医事請求担当係長、今井施設担当係長、斉藤物品担当係長
看護技術研修Ⅰ 感染防止の技術	4/7	新採用看護職	63名	3.5 時間	講義と演習：職業感染、感染予防対策の理論と実際、防護具の選択とその具体的使用法 講師：十文字感染管理認定看護師看護部長、河原感染管理認定看護師、感染リンクナース会委員
看護技術研修Ⅱ 安全確認の基本	4/8	新採用看護職	63名	3.5 時間	講義と演習：誤薬防止の手順に沿った・与薬患者誤認防止策の実施・転倒転落防止の実施・抑制 講師：7-2病棟廣瀬看護師、7-2病棟千葉看護師、教育委員会委員（辻看護師、加藤看護師、小林看護師、井上看護師長、鷲森看護師長）
看護技術研修Ⅲ 食生活援助経営栄養 インスリンと抗生物質	4/9	新採用看護職	64名	3.5 時間	講義・デモンストレーション・演習：食生活支援・経管栄養法血糖測定、インスリン・抗生物質の用法と副作用の観察 講師：12-1病棟吉野看護師、9-1病棟大沼看護師、教育委員会委員
看護技術研修Ⅳ 医療機器研修； 輸液ポンプと心電図	4/9	新採用看護職	64名	3.5 時間	講義・デモンストレーション・演習：輸液ポンプの準備と管理、心電図の基礎知識と心電図モニター・12誘導心電図の装着・管理 講師：ICU 田口看護師、菅原ME担当係長、CCU力丸看護師、教育委員会委員（野部看護師、牧野看護師、吉留看護師長、鈴木博美看護師長）
看護技術研修Ⅴ 移乗介助・移送 抑制方法 呼吸ケア技術	4/14	新採用看護職	62名	全日	講義・デモンストレーション・演習：活動・休息援助技術、歩行介助・移動の介助・移送、体位変換（ボディーメカニクスの視点）、体動・移動に注意が必要な患者への援助、転倒転落防止の実施（安全確保から）、抑制の実際、酸素吸入療法、体位ドレナージ・吸引パルスオキシメーターによる測定 講師：14-2病棟宮武看護師、EICU庄司看護師、教育委員会委員（遠藤看護師、平尾看護師、小野看護師、三浦看護師長、金子看護師長）

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
第1回 医療機器安全使用研修 (頭・腹部血管撮影装置更新、導入時研修)	4/14	医師・ 看護師・ 診療放射 線技師	47名	各 1.5 時間	講義：更新装置について ①有効性・安全性に関して、②使用方法に関して、③保守点検に関して、④不具合等が発生した場合の対応、⑤使用に関して特に法令上遵守すべき事項、を研修 講師：坂野智一(放射線技師)、木原(シーメンス旭メディテック)
看護技術演習VI 排泄介助技術と 直腸内与薬 清潔操作の基本 創傷ケアと褥瘡予防	4/16	新採用看 護職	63名	全日	講義・デモンストレーション・演習：浣腸・排便、膀胱内留置カテーテル・導尿、直腸内与薬、包帯法・清潔操作、創傷管理技術「創傷処置・褥瘡の予防」、体位変換(褥瘡予防から) 講師：10-1病棟中込看護師、11-2病棟宮田看護師、手術室庄司看護師、教育委員会委員(安江看護師、豊田看護師、金子看護師長、吉留看護師長、吉澤看護師長)、望月集中ケア認定看護師、平井集中ケア認定看護師
看護技術演習VII 与薬と注射の技術 正しい検体採取と採 血	4/17	新採用看 護職	64名	全日	講義・デモンストレーション・演習：与薬の技術「経口薬・外用薬・直腸内投与皮下・筋肉・静脈・点滴静脈内注射へパリンロック(三方活栓)」について、静脈血・尿・その他の検体の取り扱いと静脈血採血について 講師：外来A雨宮看護師、救命病棟竹井看護師、8-1病棟田代看護師、教育委員会委員(神谷看護師、井上看護師長、三浦看護師長)
看護技術演習VIII 救命救急処置	4/25 4/28	新採用看 護職	63名	1.5 時間	講義と演習：患者急変時の対応として一次救命処置とAED操作 講師：救命救急センター小菅医師、鈴木久美子看護師長、山村救急認定看護師・富樫救急認定看護師・平井集中ケア認定看護師・望月集中ケア認定看護師・戸田集中ケア認定看護師
中心静脈カテーテル 挿入講習会	5/9 5/12 5/13 10/1	研修医 医師	48名	各 3.0 時間	講義と演習：講師；麻酔科 小出医師、血液内科 藤沢医師、安全管理指導者 寺崎医師
心肺蘇生講習会	5/15 7/17 9/18 11/20 1/15 3/19 (医) 6/26 10/23 2/26 (非)	全職員 (医療 者・非医 療者)	医療者 223名 非医療者 53名	各 1.5 時間	講義と演習インストラクション： 成人のCPA、AEDの実技、成人の食道異物時の対応 講師およびインストラクター： 高度救命救急センター 小菅医師、心血管医療センター 塚原医師、麻酔・集中治療部 高橋医師、小山医師、救急看護認定 鈴木久美子看護師長、山村看護師、平井看護師、集中ケア 認定 戸田看護師 望月看護師、(心肺蘇生部会メンバー)
新任看護師長研修 <附属2病院合同>	5/16 (11/7)	新任師長 ～3年目 看護師長	11名	10.5 時間	講義：看護師長を担う上で必要な知識を習得し、実践するための看護管理について学ぶ 講師：鈴木センター病院管理部長、折津附属病院看護部長、山田センター病院看護部長、愛知県立看護大学 平井教授
看護技術研修IX 輸血の知識と管理 薬剤・放射線曝露 予防策の実施	5/19	新採用看 護職	65名	3.5 時間	講義と演習：一般検査・血液検査・細菌検査における検体と取り扱い、輸血の知識と管理、患者対応、薬剤曝露防止策・放射線曝露防止策における知識と対応の実際について学ぶ 講師：杉山検査技士・吉野検査技士・菅野検査技士・宮内放射線技士・佐々木薬剤師・13-2病棟金子看護師長・牧野看護師・高橋看護師

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
安全管理研修会 I 「移乗の介助」	6/18 7/9 8/8, 15 10/2, 17 11/6	全職員	111名	各 1.5 時間	講義と演習：移乗とは・環境設定（準備）のポイント・介助のポイント・声かけの重要性・介助量の判断基準・実技 講師：藤浦達、津戸佐希子、林和子
中途採用 オリエンテーション	毎月1日 8:30～ 14:30	新採用 看護師	19名 (月平均 3名)	各回 3.5 時間	講義・施設見学：組織の理念や方針、運営について理解する 講師：吉澤教育担当看護師長、川島看護師採用・育成担当看護師長
基礎ACLS	6/19 8/21 10/16 12/18 2/5	看護師	32名	各回 2時 間	講義・演習：必要な患者に対し、正しい知識に基づいた安全且つ適切な心肺蘇生法について学ぶ 講師：山村救急看護認定看護師、平井集中ケア認定看護師
第3回横浜市大 センター病院 感染症フォーラム	6/27	全職員	51名(うち地域連 携病院5 名)	1.2 時間	講義：テーマ「医療現場から社会への提言」 講師：順天堂大学医学部医療安全推進部長 小林弘幸先生
公開講座 I 呼吸器装着中の看護	6/3 7/16 8/19 9/9 10/28	看護師	院内/院 外 43/15名 21/25名 11/24名 20/22名 6/17名 (204 名)	各回 1.5 時間	講義：呼吸管理に必要な患者に対し、正しい知識に基づいた安全且つ適切な看護技術を提供できる 講師：G I C U 山田医師、望月集中ケア認定看護師、山村救急認定看護師、平井集中ケア認定看護師、山下臨床工学技士、土橋臨床工学技士、青柳臨床工学技士 5回シリーズ
公開講座 II スキンケア	6/6 7/17 8/21	看護師	院内/院 外 10/20名 15/22名 15/19名	各回 3.5 時間	講義：患者に安全・安楽且つ根拠に基づいたストーマケア・褥瘡対策について学ぶ 講師：井口ET/皮膚排泄ケア認定看護師 3回シリーズ
公開講座 III 小児医療	7/2 10/29 2/3	医師・看護 師・コメ ディカル	70名 (院内54 院外16)	各回 1時 間	講義：子どもと家族に対する医療の質を向上させるための知識・技術を磨く①②は乳児・小児BLS③は虐待予防 講師：長田小児看護専門看護師・看護師長
新人看護師 安全管理研修	7/9	新採用看護 職	52名	3.5 時間	講義・演習：インシデント事例をもとに要因や対策を考え、新人が起こしやすいインシデントについて認識を持てるよう講義、グループワークを行った。 講師：野水安全管理担当看護師長
第4回横浜市大 センター病院 感染症フォーラム	8/8	全職員	93名(うち地域連 携病院13 名)	1.2 時間	講義：テーマ「抗菌薬の基本的な使い方」 講師：沖縄県立中部病院 内科部長 遠藤和郎先生
安全管理研修会 II 「医療機器」	9/4, 18 10/2, 16, 30, 11/13, 11/27, 12/11, 18, 1/15, 19, 2/5, 19, 3/5, 19	看護師 (各委員 会 メン バー)	202名	各 1.0 時間	講義：医療機器取り扱いについて 1 医療機器取扱研修（輸液ポンプ、シリンジポンプ）、 2 医療機器取扱研修（人工呼吸器：T-バード、E-200） 講師：菅原臨床工学担当係長

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
臨床倫理と看護	9/12	看護師	11名	3.5時間	講義・演習：臨床現場で起こるうる倫理的問題について考えることができ、倫理的感性を高める 講師：長田小児看護専門看護師 ファシリテーター：教育委員会委員
看護技術研修Ⅹ 麻薬・劇薬の知識と管理	9/26	新採用看護職	46名	1.5時間	講義：病棟業務に関わる範囲の麻薬・劇薬・毒薬・向精神薬・血漿分画製剤の管理方法、抗生物質使用とどけや麻薬・抗菌剤の関連法規について学習。麻薬の主作用、副作用について学び痛みのアセスメントシートの意義、活用の仕方などを講義形式で学習 講師：畔上薬剤部担当係長、浦崎がん性疼痛看護認定看護師
公開講座Ⅳ 急変の看護	9/19, 24 10/3, 15 11/5, 19, 28, 12/3	看護師	院内/院外 283名 (153/130) 聴講生 109名 (68/41)	各回 1.5時間	8回シリーズ、7回までは1.5時間/回、8回目は事例検討（全日予定） 講義・演習：一般病棟において、急変した患者に根拠に基づいたアセスメントにより、看護実践をすることができる 講師：望月集中ケア認定看護師、戸田集中ケア認定看護師、山村救急看護認定看護師、平井集中ケア認定看護師
第1回 医薬品安全管理講習会	9/29	全職員	46名	1.0時間	講義：医薬品の適正使用と情報提供 1 医療用医薬品添付文書のミカタ 2 輸液調製時における注意点 講師：薬剤部 佐々木琢也 薬剤部 牛島大介
安全管理研修会Ⅲ 「説明書作成」	9/30 10/11 10/12	医師	39名	各 6.0時間	講義：説明書作成のために、「インフォームド・コンセント」や「説明すべき事項の基準」 講師：安全管理指導者 寺崎仁医師
第2回 医療機器安全使用研修（放射線治療装置の安全使用の定期研修会）	10/1 3/3	医師・看護師・診療放射線技師	46名	各 1.5時間	講義：診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置について ①有効性・安全性に関して、②使用方法に関して、③保守点検に関して、④不具合等が発生した場合の対応、⑤使用に関して特に法令上遵守すべき事項、を研修 講師：荻野伊知朗（放射線科医師）、佐々木健二（放射線技師）、中村康彦（放射線技師）、橘猛（放射線技師）、菊地達也（放射線取扱主任者）
アサーション	11月20日	中堅看護師	12名	3.5時間	講師：リエゾンナース 内容：対人関係における自己の傾向を知り、効果的なアサーティブコミュニケーションについて学ぶ
放射線業務（診療）従事者講習会	6/2 12/1	放射線業務（診療）従事者 <ガラスバッジ装着職員>	121名	各 1.5時間	講義：①放射線の人体に与える影響、②放射線の安全取扱Ⅰ（放射線管理）、③放射線の安全取扱Ⅱ（放射線治療、血液照射、RI）、④放射線障害防止に関する法令・規定 講師：①濱口真吾、堀川学（放射線部医師）、②千葉敏春、黒田周児（放射線技師・放射線部放射線管理委員会）、③佐々木健二、石川栄二（放射線技師・放射線部放射線管理委員会）、④菊地達也（放射線取扱主任者）
第3回 医療機器安全使用研修（治療計画CT装置更新導入時研修）	12/11	診療放射線技師	27名	各 1.5時間	講義：更新装置について ①有効性・安全性に関して、②使用方法に関して、③保守点検に関して、④不具合等が発生した場合の対応、⑤使用に関して特に法令上遵守すべき事項、を研修 講師：橘 猛（放射線技師）、木下秀之（GE横河ゲイカリスム）

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
第2回 医薬品安全管理 講習会	2/18	全職員	47名	0.45 時間	講義：薬のインシデントをアクシデントにしないために ～ 問い合わせ事例から～ 講師：薬剤部 上手真梨子、杉谷真理、富ヶ原夕紀
安全管理研修会 IV 事例要因分析	2/23	全職員	91名	1.5 時間	講義：事件事例分析（RCAを中心に） 講師：恩田清美、山内桂子（東京海上日動メディカルサービス）

## 5 入院患者アンケート（附属病院の例）

### 入院患者さんアンケート

このアンケートは、皆さんが入院療養中にお感じになったことについてうかがい、病院の安全管理対策や医療サービスの質を向上させていくことを目的としています。皆様から頂戴したご意見を参考に、より信頼される病院づくりに向け、職員一同、励んで参りますので、率直なご意見をいただければと思います。ご協力をお願いします。

アンケートにつきましては、退院の際または退院後外来にご来院されました折に、2階総合案内カウンター（土・日曜、祝日は1階防災センター）に設置してあります回答箱に投函くださるよう、お願いいたします。

横浜市立大学附属病院長

1 貴方様が入院期間中に受けた、病状や治療方針の説明は分かり易かったですか。

（該当する□にし点をつけてください）

- 良く理解できた       一応理解できた       どちらでもない  
 余り理解できなかった       全く理解できなかった  
 その他 \_\_\_\_\_

2 入院中の治療、検査、処置など診療全般について、医療安全管理上問題があったと思われたこと、その他に気づかれたことや不満に思われたことがありますか。

（該当する□にし点をつけてください）

- ある       ない

3 「ある」とお答えいただいた方は「いつ」「どのようなことか」などを具体的にお書き願います。

---

---

---

---

---

---

---

4 医師，看護師，薬剤師，技師などの対応について，どうお感じになりましたか。

(該当する□にし点をつけてください)

- 非常に良い       まあ良い       普通       やや悪い  
 非常に悪い       分からない

5 病室，トイレ，デイルーム，食事など院内の療養環境について，あなたの印象に最も近いものはどれですか。      (該当する□にし点をつけてください)

- 満足       やや満足       やや不満       不満       何とも言えない

6 職員の対応や療養環境，その他，お気づきの点があれば自由にご記入下さい。

---

---

---

---

7 おかかりの診療科と病棟を記入して下さい。

① 入院した病棟 \_\_\_\_\_ 病棟

② 診療科 (該当する□にし点をつけてください)

- リウマチ・血液・感染症内科     呼吸器内科     循環器内科  
 腎臓・高血圧症内科     消化器内科     内分泌・糖尿病内科     神経内科  
 脳卒中科     神経科     小児科     一般外科     心臓血管外科  
 心臓・小児循環器     消化器・肝移植外科     臨床腫瘍・乳腺外科  
 整形外科     皮膚科     泌尿器科     産婦人科     眼科     耳鼻咽喉科  
 放射線科     歯科     口腔外科     麻酔科     脳外科  
 リハビリテーション科     形成外科     小児精神神経科

8 差し支えなければご記入下さい。

ア 性別： 男性・女性      (該当する方に○をつけてください)

イ 年齢 \_\_\_\_\_ 歳

ウ ご住所 \_\_\_\_\_

お名前 \_\_\_\_\_

ご記入の日    平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日      (ご協力ありがとうございました)



横浜市立大学附属2病院での、過去5年間の公表事例・インシデント件数等

(1) 即時公表した事例

年度	記者発表日	事 例	病 院
平20	H20. 9. 19	胃慶チューブの不十分な挿入による腹膜炎の発症	センター病院

※平成16年度～平成19年度での即時公表事例はありません。

(2) 上記以外で個別公表した事例

年度	記者発表日	事 例	病 院
平18	H19. 3. 28	昭和54年当時の手術の際のガーゼ遺残	附属病院

(3) 一括公表した件数

年 度	附属病院	センター病院	合計
平成16年度分	0 件	0 件	0 件
平成17年度分	1 件	1 件	2 件
平成18年度分	2 件	3 件	5 件
平成19年度分	2 件	1 件	3 件
平成20年度分	1 件	1 件	2 件

(4) インシデント件数

年 度	附属病院	センター病院
平成16年度	2,654 件	5,913 件
平成17年度	2,516 件	5,273 件
平成18年度	2,570 件	5,873 件
平成19年度	3,264 件	5,760 件
平成20年度	3,466 件	6,149 件

■横浜市立大学附属2病院の正式名称

附属病院 : 横浜市立大学附属病院

センター病院 : 横浜市立大学附属市民総合医療センター